２０２６（令和８）年度
大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程
（一般入試）入学試験＜冬期＞
「専門科目Ｂ（行動学系）」問題用紙（Question Sheet）

※以下の欄は、試験開始の合図の後に記入してください。

研究分野 field of specialization	
受験番号 examinee number	

【注意事項】

1．この「問題用紙」は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
Do NOT open the "Question Sheet" until the examiner signals the start of the exam.

2．試験開始の合図の後、受験票に記載の志望する「研究分野」及び「受験番号」を上記の欄及び別に配付された「解答用紙」の所定の欄に正確に記入してください。
After the signal to start the exam is given, please accurately fill in the "field of specialization" and "examinee number" written on your examination voucher in the above-mentioned spaces on this form and in the designated spaces on the "Answer Sheet" distributed separately.

3．解答はこの「問題用紙」内に記載のある指示に従い、「解答用紙」の所定の解答欄に正確に記入してください。
配付されている下書き用紙に記入しても、採点はされません。
Follow the instructions on the "Question Sheet" and write your answers accurately in the designated spaces on the "Answer Sheet."
If you write your answers on the provided draft paper, they will not be graded.

4．この「問題用紙」及び「解答用紙」のホッチキス止めは、はずさないでください。
Do NOT detach the staples from the "Question Sheet" and "Answer Sheet."

5．この「問題用紙」及び「解答用紙」は、持ち帰ってはいけません。
Do Not take the "Question Sheet" and "Answer Sheet" home with you.

２０２６（令和８）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程（一般入試）入学試験＜冬期＞問題用紙

試験科目	専門科目Ｂ（行動学系）

次の①から⑤の条件に従い，以下の諸問題から計２問を選択して解答せよ。

① 問題番号（１から１２）に記載されている研究分野名を参照し，志望する研究分野の問題２問を選択すること。

② 問題番号（１から１２）ごとに別紙解答用紙（１枚目および２枚目）を用いて解答すること。

③ 解答用紙には選択した問題番号を明記すること。

④ 複数の小問からなる問題を選択した場合には，解答ごとに最初に必ず小問の記号を記入すること。

⑤ 日本語または英語で解答すること。ただし，指定がある場合はその言語を使うこと。

１．（応用認知心理学）視覚的な注意の働きは，しばしばスポットライトやズームレンズの比喩で説明されてきた。注意研究で用いられる代表的な課題を一つ選び，その課題の典型的にみられる結果が，スポットライトやズームレンズの比喩を用いてどのように説明されるかを述べよ。

２．（応用認知心理学）次の３つの用語について説明せよ。

(a) 文脈手がかり効果 (contextual cueing effect)

(b) 単一資源理論 (single-resource theory)

(c) ヤーキーズ・ドッドソンの法則 (Yerkes-Dodson's law)

３．（社会心理学）３枚目をみよ。

４．（社会心理学）次の用語について日本語あるいは英語で説明しなさい。

(a) stereotype threat

(b) self-categorization theory

(c) elaboration likelihood model

(d) hostile media effect

(e) cross-lagged panel model

５．（臨床死生学・老年行動学）４枚目をみよ。See page 4.

６．（臨床死生学・老年行動学）以下の４つの用語をそれぞれ詳しく説明せよ。

Explain the following four terms in detail.

(a) 性格特性と寿命の関係 (relationship between personality and longevity)

(b) 処理速度 (processing speed)

(c) 生涯発達理論における第９段階 (ninth stage of the life span developmental theory)

(d) ナン研究 (Nun study)

２０２６（令和８）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程（一般入試）入学試験＜冬期＞問題用紙

試験科目	専門科目Ｂ（行動学系）

7.（安全行動学）自転車による交通事故の特徴を説明し，事故防止対策について具体例も挙げながら論じなさい。

8.（安全行動学）以下の３つの用語についてそれぞれ説明せよ。図を用いてもかまわない。

(a) センセーション・シーキング (sensation seeking)

(b) リスク補償 (risk compensation)

(c) スイスチーズモデル (Swiss cheese model)

9.（発達認知科学）選好注視法・馴化/脱馴化法・期待違反法の違いを説明し，それぞれの方法論に適切な研究の具体例を挙げ，それらがなぜ適切なのかを説明しなさい。

１０.（発達認知科学）以下の用語について，具体例を挙げながら説明しなさい。

(a) クレバーハンス効果 (clever Hans effect)

(b) 吸啜法 (sucking method)

(c) 二重盲検法 (double blind test)

(d) 内受容感覚 (interoception)

(e) 内言 (inner speech)

１１.（認知行動工学）バンデューラの社会的認知理論（社会的学習理論）と実行意図（implementation intention）を組み合わせて，特定の健康行動の変容または公共場面での行動変容を目的とした介入プログラムを設計せよ。

その際，以下の要件を満たすこと：

- 対象となる行動と集団の明確化（介入対象行動と対象集団の特性を具体的に定義）
- 社会的認知理論と実行意図の理論的統合（両理論の主要概念を活用した理論的根拠の説明）
- 具体的な介入戦略の提案（実践的で倫理的配慮を含む介入方法の詳細）
- 介入効果の測定と評価方法（適切な評価デザインと指標の設定）

１２.（認知行動工学）以下の５つの用語を詳しく説明しなさい。

(a) 現在バイアス (present bias)

(b) フレーミング効果 (framing effect)

(c) 恐怖訴求 (fear appeal)

(d) ナッジ (nudge)

(e) 意思決定バランス (decisional balance)

２０２６（令和８）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程（一般入試）入学試験＜冬期＞問題用紙

試験科目	専門科目Ｂ（行動学系）

３．（社会心理学）次の文章を読んで，以下の問いに答えなさい。特に指定がなければ，日本語あるいは英語で答えなさい。

（問題文は、著書の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下のとおりです。）

出典：大坪庸介・アダム スミス (2017). 英語で学ぶ社会心理学 有斐閣 (p.86 から一部抜粋・改変)

(a) 下線部を日本語に訳しなさい。

(b) Asch's line judgment experiment is typically seen as an example of conformity produced by **normative influence**. Describe one experimental task and situation in which conformity would mainly be due to **informational influence**. Give one concrete example and explain why you think it is appropriate.

２０２６（令和８）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程（一般入試）入学試験＜冬期＞問題用紙

試験科目	専門科目Ｂ（行動学系）

5．（臨床死生学・老年行動学）　次の論文の要約を読み，以下の問いに答えよ。
Read the following abstract of a paper and answer the questions.

（問題文は、著書の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下のとおりです。）

出典：Klusmann, V. et al. (2019). Positive self-perceptions of aging promote healthy eating behavior across the life span via social-cognitive processes. *The Journals of Gerontology, Series B: Psychological Sciences and Social Sciences* 74: 735–744.

(a) 生涯発達心理学では，「可塑性は人生前半だけでなく人生後半にも生じる」と仮定されている。この仮定が本研究とどのように関連しているか説明せよ。
Lifespan developmental psychology assumes that plasticity is present not only in early life but also in later life. Explain how the assumption is relevant to this study.

(b) 本研究の背景にあると考えられる理論的枠組みについて説明せよ。
Explain the theoretical framework that is presumed to underlie this study.

(c) 本研究で検証された主な仮説モデルを図示し，説明せよ。さらに，その知見をどのように政策や実践に活かすことができるか，具体的な提案を１つ挙げ，その理由を述べよ。
Illustrate and explain the main hypothesized model tested in this study. Furthermore, propose one concrete policy or practical implication that could apply the findings, and explain your rationale.